



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
Vol. 121

「夢を売る少女」

平成6(1994)年

アンデルセンの童話に「マッチ売りの少女」というお話がありますが、実際にかごを持ってマッチや花を売り歩く少女など、現代の日本では見かけません。しかし、戦前から戦後にかけて、花売り娘を題材にした歌謡曲がありました。「東京の花売り娘」「上海の花売り娘」「南京の花売り娘」など岡晴夫が歌って人気を博した作品がその代表です。

「花売り娘」には、若さ、貧困、清純、はかなさ、荒廃した都会などのイメージが重層的に表現されていて、哀愁が漂ってくるようですが、その一輪の花には少女の小さな夢が込められていたかもしれません。



(高さ)23cm × (幅)13cm × (奥行)17cm
中村晋也美術館

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど
キラリ

ふる ゆうじょう
布留 裕成さん
(和田町)



17人の保護司が在籍する亀山市保護司会の会長。保護観察対象者への助言・指導や、刑務所・少年院出所者の生活環境調整に加え、「社会を明るくする運動」をはじめとする犯罪予防の啓発にも取り組む。拠点となる亀山市更生保護サポートセンターは、亀山市社会福祉センター(若山町)内に所在。開所日時は月・水・金曜日の午前9時～午後4時。

保護司として再出発を信じる

罪を犯した人が再び犯罪しないよう立ち直りを助ける保護司としての歩みは、私が30代だった平成2年に始まりました。現任者の病気により「1期2年、もしくは2期4年だけ代わってほしい」と声を掛けられ、同年11月から活動を開始。「当時は少年による暴走行為が多く、最初の担当も少年でした。特に苦労したのは就職先の確保で、個人事業主とのつながりも少なく、ハローワークに相談してもなかなか就職には結びつきませんでした。翌年には自ら亀山ロータリークラブに加入し、就職先の確保に取り組みました」と振り返ります。

対象者には、月2回の面談と往訪を行い、本人や家族から生活状況を丁寧に聞き取り、報告書にまとめます。「仕事が決まらず、友人づてに草刈りや倉庫の掃除など小遣い程度の報酬で過ごす少年を見ると胸が痛みます。観察期間中に生活

が安定すれば保護観察の解除申請を行うこともあります。状況は人それぞれで、あくまでケースごとの判断になります。面談結果は、良好・不良に関わらず保護観察所へ提出します」と話します。

「保護司は大変な仕事と思われがちですが、刑期を終えた人が再び社会の一員として歩み出す姿に触れると、大きな喜びとやりがいを感じます」と語る一方、「新聞で再び名前を見つけたときの失望も忘れません。過酷な環境で生きてきた人も多く、その背景を思うと胸が締め付けられます。それでも、その思いに寄り添えるのは保護司だと信じています」とも話します。近年は欠員が増え、担い手の確保に苦慮している保護司会。地域の未来を守るため、これからも温かいご理解とご協力をお願いします。

